

令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理 A	単位数	2 単位	年次	2 年次
使用教科書	「高等学校新地理 A」 (帝国書院), 「新詳高等地図」 (帝国書院)						
副教材等	「最新地理図表 GEO」 (第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

高校地理では, 「地」 球上でみられるあらゆる事象の「理 (ことわり)」 を学びます。地形や気候, 農林水産業, 鉱工業, 人口, 都市, 民族, 生活文化にいたるまで, 高校地理で扱う分野は広範にわたりますが, それぞれの分野における様々な事象には必ず「なぜそうなるのか」という理由が存在しています。普段から地理的な見方で社会を眺めることを意識し, 講義や実習を通じて地理的な考え方を修得することによって, 世の中を深く洞察する力が身に付きます。

2 学習の到達目標

- ・現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景, 日常生活との関連を踏まえて考察することができる。
- ・現代世界の地理的認識を養うとともに, 地理的な見方や考え方を培う。
- ・国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用 の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	地理的事象に対する関心と課題意識を高め, 意欲的に追究するとともに, 国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	地理的事象から現代世界の諸課題を見だし, 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し, 国際社会の変化を踏まえ公正に判断して, その過程や結果を適切に表現している。	各種統計、地球儀や世界地図や地理院地図, GIS (地理情報システム) 等を有効に活用しながら情報を適切に選択して, 効果的に活用している。	我が国の国土や風土, 及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し, その知識を身に付けている。
評 価 方 法	ワークシート 確認テスト レポート 受講態度の観察	定期テスト ワークシート 班別活動の発表内容	定期テスト ワークシート ワークノート	定期テスト ワークシート 確認テスト

上に示す観点に基づいて, 学習のまとめりにごとに評価し, 学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて, それぞれの観点を適切に配分し, 評価します。

#### 4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	地球儀や地図からとらえる世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球面で世界を考える</li> <li>・世界地図の特徴を知る</li> <li>・世界観の広がりと地図</li> </ul>	○	○			<p>a: 衛星画像や地理情報システムなど新しい地図表現に、関心をもつことができる。</p> <p>b: 地球儀の学習を通して、球面に生きる私たち人間の生活を、地域性を考慮しながら、考察することができる。地球儀と世界地図を用いて、球面を平面に表現する際の特徴と問題点を、考えることができる。</p> <p>c: 正距方位図法を使って、日本を中心とした方位・距離を求めることができる。表現する内容や用途に応じて、さまざまな図法の地図を地図帳やインターネットから集め、使い分けることができる。</p> <p>d: 地球儀上の位置の示し方や時差の考え方、メルカトル図法、正積図法、正距方位図法の特徴と欠点を、知識として身につけている。リモートセンシングやGPSなどの役割を理解できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・ノート提出</li> <li>・定期考査</li> </ul>
	世界の人々の生活を取りまく地球的環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的視野から見た地形</li> <li>・さまざまな地形と生活</li> <li>・世界的視野から見た気候</li> <li>・世界の気候と生活</li> </ul>		○	○	○	<p>a: 世界の自然環境について、なぜ現在のような分布になったのか関心を持ち、日本の自然環境について、世界の中で位置づけて、日本の地形や気候などに関心をもって学習することができる。</p> <p>b: 世界各地に現象面として現れる自然環境の地域性について、成因とからめておおまかにとらえることができる。各気候帯の雨温図から、その地域の気候の特徴を読み取ることができる。</p> <p>c: 世界の衛星画像が閲覧できるアプリケーションソフトなど、GISを用いて、世界各地の暮らしの様子を想像することができる。</p> <p>d: なぜ世界にさまざまな地形や気候が見られるのかを理解し、さまざまな地形の上で見られる人々の生活環境や、気候区ごとの生活の特徴を、知識として身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・ノート提出</li> <li>・定期考査</li> </ul>

2学期	私たちが直面する地球的課題	・資源・エネルギー問題	○		○	○	a: 地球的課題は、地域によって現れ方が異なっており、その地域性に関心をもつと同時に、その地域性に応じた取り組みを考えようとする態度が身についている。	・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		・人口問題 人口増大と少子・高齢化	○	○		○	b: 人口問題，食料問題，居住・都市問題，資源・エネルギー問題，地球環境問題，領土問題などの地球的課題について，地域性をふまえて考察でき，その問題の所在や解決の方向性について，考えることができる。	
		・食料問題 食料需給のアンバランス	○		○	○	c: 各地球的課題について，問題点を抽出し，図書館やインターネットなどで調べることができる。解決策の具体例について，インターネットや関連団体・役所などから資料を集めることができる。	
		・都市・居住問題 健康で安全な生活環境		○		○	d: 資源・エネルギー問題，人口問題，食料問題，都市問題，領土問題について，世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。	
		・領土問題						
2学期	生活圏の諸課題の地理的考察	・身近な地図の読み取り		○	○	○	a: 身近にあるさまざまな地図を収集して，地図を読むことの楽しさに関心をもつことができる。観光地図や地形図の読図，統計地図の作図など，各種作業学習に積極的に取り組むことができる。	・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		・地形図の活用	○		○	○	b: 自宅から学校までなど，メンタルマップとして自分の身近な環境を地図化し，説明することができる。等高線や地図記号などの読図により，新旧地形図の比較をおこない，変更点を地図上に表現することができる。 c: 国土地理院の「地理院地図」や「Google Earth」，「今昔マップ」等を目的に応じて使い分けることができる。 d: 新旧地形図の比較から地域の変化を読み取るなど，地形図の有効な利用について理解している。さまざまな内容の作業を行い，地形図を読む際の決まりごとを知識として理解している。	

3 学期	自然環境と防災	・日本の自然と生活		○	○	○	<p>a:身近な微地形の変化に目を向け、暮らしとの関連性を見出そうと意欲的に取り組んでいる。身近な地域で起こりやすいとされている災害に対し関心を持って学習し、地域の防災・減災や国土強靱化に向け貢献しようと積極的に取り組んでいる。</p> <p>b:ハザードマップを読み解き、災害時の行動をシミュレーションするD I G（図上訓練）に取り組むことで、地域の危険な場所について発表したり、レポートにまとめたりすることができる。</p> <p>c:写真や地図・図版を適切に参照し、自然災害が多発する日本列島に、豊かな文化が築かれた背景を考察する。自らが住む地域のハザードマップを国土地理院のポータルサイトで検索したり、市役所や町役場で発行されている実物入手したりする。</p> <p>d:人々の生活に大きな影響を与える火山災害、水害、地震について、現象やこれまで受けてきた被害を理解するとともに、先人の知恵と工夫が詰まった災害とともに暮らす生活について考察できている。ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に見舞われた際になるべく減災できるよう、地域防災力を高めるために一人一人ができることを話し合い、地域に還元することができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・ノート提出</li> <li>・定期考査</li> </ul>
		・自然災害に備えた暮らし	○	○	○	○		

※ 表中の観点について    a:関心・意欲・態度                      b:思考・判断・表現  
    c:資料活用 of 技能                      d:知識・理解

※原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。